

高モデル⑦「料理人への道。オリジナルレシピを携えて」 ～自分のすることが分かり、一人で活動する～

京都市立西総合支援学校 高等部

活動グループ： 1年生活③ユニット（男子4名，女子4名，計8名）

授業者： ◎白市純也 中林典子 （指導案作成者◎）

授業期間： 11月18日～2月10日 全9回 20時間

本 時： 10：45～11：30 15時間目／20時間

授業場所： 西棟2階 調理室（小）

ユニット参加児童生徒の障害

☒知的障害 （ 7 名 内，自閉症 2 名 ）☒知的障害・肢体不自由重複障害 （ 1 名 ）☐その他 （ ）

1. 本ユニットで取り扱う目標（3ケース抽出）

児童生徒	短期目標（○：ユニットの中心課題） （・：取り扱う関連課題）	本ユニットで取り扱う行動目標
A	○インターネットなどを使い，自分に必要な情報を手に入れる ○料理のレシピを見ながら，料理を作る	・調理に必要な動画を検索するための検索ワードを考え，インターネットで検索する ・自分で作ったレシピを見ながら調理をする
B	○調理に必要な材料を量ったり，混ぜたりして調理の一部分を担う	・水の量を量ったり，小麦粉や卵を混ぜたりして調理の一部分を担う
C	○担当する係の仕事を最後までやり遂げる ○困った時に指導者に支援を求める	・調理器具や食器の準備，食材を混ぜるなどの作業を担う ・作業中，困った時に指導者に支援を求める

2. ユニットについて

(1) 児童生徒について

A：家庭での手伝いをよく行い、洗濯、アイロンがけ、買い物などを一人で行う。また、うどんを茹でて作ったり、カレーを作ったりするなどの簡単な調理も行う。このような日常生活の中で繰り返し行うことについては、手順を覚え、最初から最後まで丁寧にやりきることができる生徒である。また、新しく行うことに関しては、最初はどのように行なっているのかがわからず、戸惑うこともあるが、指導者がそばにつき、繰り返し学習する中で手順を覚えると、指導者が支援をフェードアウトしていても一人で最後までやりきることができるようになる。現在では最後までやりきることを自分の役割として認識し、自信を持って行なっている。

クラススタディでは、調べ学習を行っている。卒業後、自立した生活をしていくために、自分でわからないことを調べ、解決するということが必要になると考える。その調べ学習の中で、本人の好きな野球について、自分の好きな球団の試合結果をパソコンで調べた時には、とても意欲的に学習し、家庭でも調べ学習が楽しいという話をしていた。さらに、校外学習の経路や学習に必要な画像を検索するという学習も行なった。校外学習では、調べた経路のメモを見ながら、周りの友達に言葉かけをして、目的地に向かうといったように調べた内容を活用する経験を積むことができた。

こういった姿があることから、今後の生活の中でも特に必要性の高い調理について、自分で調べて作れるレシピを増やしたいと考えた。また、オリジナルレシピを自分で調べて作ったという達成感を感じるとともに、分からないことを自分で調べられるということを理解し、自ら課題解決に向えるようになって欲しい。このことが、本人の自信となり、これから先、より自分で考え、自分で選択し、自立した生活に繋がると考える。

B：最初は指導者が一緒にやらないとやろうとしなかった活動の準備も、毎日の取組の中で一人でできるようになってきて、習慣化したものがいくつかある。例えば、給食前には、必ず全員分の机を給食の配置に並びかえたり、ワークスタディの前には、言葉かけをしなくても必要なものを自ら用意したりするようになった。また、指導者と一緒に行っていた更衣室へも何度か一緒に行くことを繰り返すことで、一人で行って帰ってくるようになっていく。これまでは、指導者と一緒に何かをしたり、移動したりすることが多かった本人にとって、一人でできることが増えてきていることは、自信になってきている様子が見られる。「できたで」「一人で行ったで」と必ず終わった後に担任に伝え、それを担任が褒めたり、感謝の言葉を言ったりすると、嬉しそうに笑顔を見せる。また、そういった変化を周りの指導者も気づき言葉をかけるので、いつもと違う活動場所でも自信を持って取り組む姿が見られるようになってきた。

これらのことから、一人でできることを増やすことが、本人の自信となり、他の様々な場面でも「やってみよう」という思いが引き出していけると考える。また、学校生活でできるようになったことを、家庭生活でもできるようにしていくことで、一番身近な家族に感謝され、より自分らしく生活することになると考える。それは、卒業後の生活の幅が広がるとともに、生活の質の向上に繋がると考える。

C：自分のやることがわかっていると積極的に活動する生徒である。そのため、これまでに何度も取り組んできた活動では、自分の役割を認識し、自信を持って行う様子が伺える。例えば、毎日行なっている朝の会や終わりの会では、司会の順番が回ってくると、とても大きな声で自信を持って進

行している。また、人が好きで、友達や指導者とかかわって活動することを好む。友達や指導者に物を届ける活動を頼んだ時は、いきいきと嬉しそうに活動に向かう姿が見られた。一方で、あまり取り組んだことがなく、内容を理解することが難しい時に、内容の説明を聞いて「わかりました」と答えるが、やり方がわからずに手が止まってしまうことがある。事前に「困った時は言ってね」と言葉かけをしても、慣れない場では自分から指導者に尋ねることは少ない。しかし、ワークスタディでは、最初に言葉かけをしておくことで、困った時に「手伝ってください」と言うことができるようになってきている。ワークスタディ以外の時間でも、そういった姿を引き出すために、同様の取組を行なっている。そうすることで、最近では、困っている様子の時に指導者が近くにいれば、自分から支援を求めることが増えてきた。

これらのことから、繰り返しの活動や、分かりやすく、意欲的に向かえる活動に取り組むことで、一人で最後までやり遂げる姿が引き出されていくと考える。さらに、困った時に助けを求めることで、一人で役割を果たす場面が増えていき、自己肯定感を高めることができると考える。そのことが、卒業後の生活でも人とかかわりをさらに広げ、本人にとってよりよい生活を送ることに繋がると考えている。

（２）ユニットの設定

本ユニットは、身の周りのことを一人で行なったり、生活の中で役割を果たしたりしながら、一人でまたは家族の一員として生活をしていく力を身につけることを目標とした生徒で構成されたユニットである。

生徒たちは、これまでに培ってきた力を多く持ち、指導者がそばにいる状況の中では、その力を十分に発揮することができる。また、一人でも、何度も同じ活動を行い、経験を積み重ねることで、徐々に力を発揮するようになってきている。そこで、これまでの活動では、本人たちが持っている力で十分に達成可能と考えられる活動内容を設定し、取組を重ねることで、自分一人でも力を発揮し、活動できることを増やすようにしてきた。また、本人たちが理解しやすいように、手順書を作成したり、視覚的な支援を活用したりすることで、スムーズに活動を行えるように配慮してきた。こういった取組の中で、自分たちの力を発揮し、一人でも意欲的に活動しようとする生徒が増えてきている。自分一人で意欲的に活動することは、本人たちの自信に繋がり、学校生活の中で楽しそうに生き生きと過ごす姿もよく見られるようになってきた。家庭では、家事の手伝いをたくさんしている生徒からそうでない生徒までいるが、どの生徒にとっても、新しい家事ができるようになり、手伝えることが増えれば、家庭での存在価値が高まり、家庭でも学校でもさらに自分らしく過ごす姿が増えるのではないかと考える。

本ユニットでは、卒業後の生活を見据え、家庭での生活・手伝いに直接つながるように調理をするという場面を設定した。メニューについても、日常的に食卓に並ぶレシピに取り組むことで、家庭でもすぐに実践できるようにしたいと考えた。それぞれの生徒が一人で、もしくは必要な支援を自ら求めて最後までやりきれる内容を、それぞれが選んだ調理方法や具材のオリジナルレシピに従いながら活動をしていく。自分で手順書を確認し、必要な時には支援を求めながら活動をすることで、一人でできることが増えた、一人で活動をやりきったという思いがさらに育ち、本人たちの自信に繋がる。やがて、自分でできることを身近な家庭の食卓と言う場で発揮していけるようになってほしいと考える。

（３）状況づくりと支援について

＜状況づくり＞

- ・インターネット検索をするための手順書は，本人の実態に合わせて，文字を入れたり，写真と目印だけで作ったりするなど，内容を精選する
- ・調理に必要な材料や調理の仕方が理解しやすいように，生徒の実態に合わせてレンジを使った簡単な作り方とフライパンやホットプレートなどを使った作り方の２パターンを用意する
- ・少ない支援や自分たちの力だけで調理できるように，必要に応じてレシピには写真を貼り付ける
- ・必要な生徒には，卵やバターを混ぜる際にボウルの下に滑り止めを準備しておく
- ・自ら支援を求めることができるように，「手伝ってマーク」をレシピに入れる
- ・完成のイメージが持ちやすいようにレシピの見本を作って示しておく
- ・イメージがわかりやすいように動画や写真を使って，学習の振り返りや説明を行う
- ・安全面に配慮し，包丁を使う場所などをテープで区切る

＜支援＞

- ・イメージが持ちやすいように，必要に応じて指導者が実演する
- ・全体に手本を見せた後，必要に応じて個別にも手本を見せる
- ・一人で作業を進めることが可能な生徒は，離れて見守り，自分の力で作業に取り組むようにする
- ・困った時は，指導者に支援を求めるように言葉かけをしたり，レシピの中の「手伝ってマーク」を指さしたりする
- ・指導者が近づいたり，目を合わせたりして支援を求めやすいようにする
- ・生徒が包丁を使う際は，一人の指導者が必ず近くに付く

3. 本ユニットの実施計画

(1) 授業実施計画

全20時間（本時第15時間目）

学習項目	内 容	状況づくり及び支援の要点	時間配当
○お好み焼き 事前学習	・ 個別のレシピに従い、野菜を切ったり、材料の量や重さを量ったり、混ぜ合わせたりして、お好み焼きを作る工程の練習をする	・ 生徒の実態に合わせて、文字の説明を入れたり、写真カードだけで作ったりする。 ・ 指導者が一度手本を見せる	4 時間
調理実習	・ 自分のレシピに従い、自分たちでお好み焼きを作る	・ でき上がりのイメージがしやすいように見本を用意する	3 時間
○サンドイッチ 事前学習	・ 自分がしたい卵の調理方法をインターネットで検索したり、写真カードで選んだりして自分用のレシピを作る ・ レシピの写真を見ながら、調理の一部分を練習する	・ より必要な情報に近い検索結果が出るように考える検索ワード3つとする ・ 指導者が一度手本を見せる	2 時間
調理実習	・ 個別のレシピに従い、自分たちでサンドイッチを作る	・ でき上がりのイメージがしやすいように見本を用意する	3 時間
○オムレツ 事前学習	・ 調理方法によって具材は様々な料理に変化することを知る ・ オムレツの中に入れる具材について、インターネットで検索したり、写真カードで選んだりして、自分用のレシピを作る ・ レシピの写真を見ながら、調理の一部分を練習する	・ 調理方法の変化について理解しやすいように、実演や動画を交えて説明する ・ より必要な情報に近い検索結果が出るように検索ワードは3つ考えるようにする ・ 指導者が一度手本を見せる	5 時間
調理実習	・ 個別のレシピに従い、自分たちでオムレツを作る	・ でき上がりのイメージがしやすいように見本を用意する	3 時間

(2) 指導計画 (個別)

児童生徒	行動目標 ※本時	できる状況づくりと支援
A	◇調理に必要な動画を検索するための検索ワードを考え、インターネットで検索する ①工程表に従ってインターネットで検索し、オリジナルレシピを作る (4時間) ②調理に必要な動画を検索するための検索ワードを考え、インターネットで検索し、調理方法を確認する ※ (5時間目/7時間) ◇自分で作ったレシピを見ながら調理をする ①自分で作ったレシピを見たり、指導者の言葉かけを受けたりしながら、調理する (3時間) ②自分で作ったレシピを見ながら、調理する (6時間)	・検索ワードが出ない時は、友達と一緒に考えるように促す ・より必要な情報に近い検索結果がでるように、検索ワードは三つ入力することを決めておく ・一人で取り組めるように指導者は離れて見守り、支援を求めてきた時にのみ応じる
B	◇水の量を量ったり、小麦粉や卵を混ぜたりして調理の一部分を担う ①指導者の支援を受けながら、水の量を量ったり、小麦粉や卵を混ぜたりして調理の一部分を担う (12時間) ②水の量を量ったり、小麦粉や卵を混ぜたりして調理の一部分を担う ※ (3時間目/8時間)	・計量しやすいように、計量カップに印をつけておく ・本人が自分でやり始めると、少し距離をおいて見守るようになる
C	◇調理器具や食器の準備、食材を混ぜるなどの作業を担う ①指導者の言葉かけを聞きながら、調理器具や食器の準備、食材を混ぜるなどの作業を担う (12時間) ②調理器具や食器の準備、食材を混ぜるなどの作業を担う ※ (3時間目/8時間)	・作業内容を写真カードで示し、完了したら、指導者に報告してはがすようにする ・混ぜる際、ボウルが動かないように下にタオルなどの滑り止めを準備しておく
	◇作業中、困った時に指導者に支援を求める ①作業前に指導者が言葉かけをすれば、必要な時に支援を求める (12時間) ②作業中、困った時に指導者に支援を求める ※ (3時間目/8時間)	・困っている時には、支援を求めやすいよう、目を合わせたり、ポジショニングしたりする

4. 本時の授業について

(1) 本時の展開

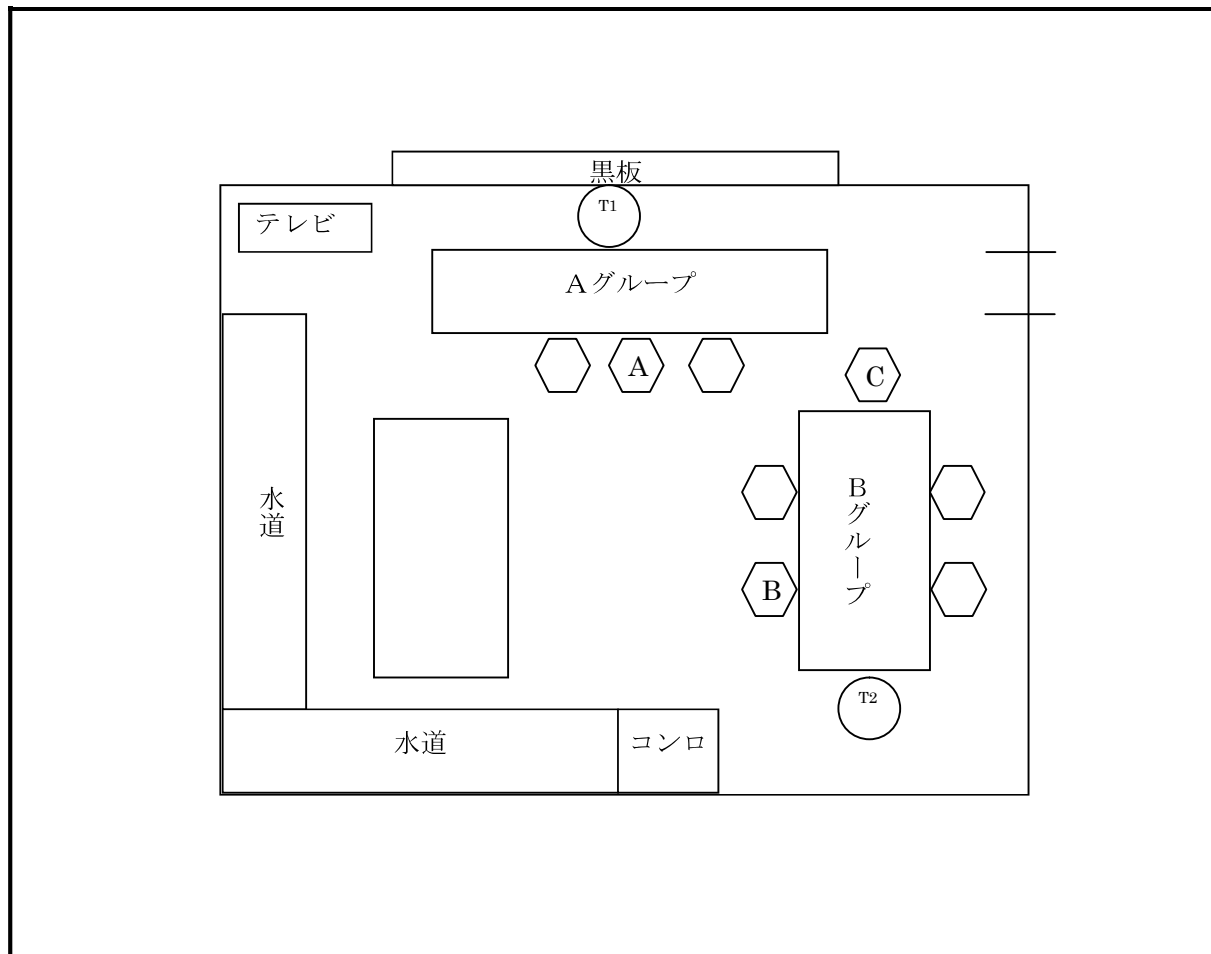
学習内容（項目）	児童生徒の活動	指導者の活動／支援
①挨拶	・指導者に指名された生徒は前に出て、自分なりの挨拶をする	・全員が立ち上がり，準備ができてから挨拶をする
②前時の振り返り	・茹でる，焼くなど様々な調理方法があることを知り，それによって，食材が変化することを復習する	・写真や動画を使って視覚的に理解できるようにする
③本時の活動について	・文字や写真のスケジュール表や見本を見て，本時の活動を知る	・それぞれの活動内容を個々に示す
Aグループ		
④オムレツの具材を調べる	・検索ワードを考え，タブレット端末でオムレツの具材について検索する（A） ・検索したオムレツの具材を印刷する	・検索ワードが考えやすいように説明の際の言葉で何度か検索ワードとなるようなことを言う ・より必要な情報に近い検索結果が出るように考える検索ワード3つとする。 ・困った時は指導者に支援を求めるよう事前に言う ・支援を求められていない様子の生徒がいれば，全体に向けて再度言葉かけをして促す
⑤オリジナルレシピ作り	・自分のレシピを作り，検索した具材の中から好きな具材を選ぶ。 ・選んだ具材を使ったオムレツのオリジナルレシピを作る ・印刷した画像を貼ったり，工程を文字で書いたりしてレシピを作る	・あらかじめ具材の候補をいくつか考えておく ・レシピを記入できるよう，書式（枠）をあらかじめ，準備しておく

Bグループ		
④オリジナルレシピ作り	・オムレツの具材を写真カードで選び、自分だけのオリジナルレシピにする ・動画を見ながら、指導者の質問に答えたり、みんなで協力して写真カードを並び替えたり、レシピに貼ったりする	・生徒の実態に合わせて、できることで役割を分担するようにする
⑤調理	・写真カードを見ながら、準備、調理をする ・調理の準備をしたり、卵とマヨネーズを混ぜたりして調理の一部分を担う（B） ・調理器具や食器の準備、食材を混ぜるなどの作業を担う（C） ・工程の中で自分一人で難しい時は、「手伝ってマーク」を手順書の中に貼る ・困った時は指導者に支援を求める（C）	・先に指導者が手本を見せる ・準備が行いやすいように、調理器具を置く場所などを写真で貼って指定しておく ・一人で行うことが困難な場合は指導者に支援を求めるように言葉かけをする ・困っている様子の生徒がいれば、目を合わせたり、レシピの中の「手伝ってマーク」を指差ししたりする
⑥試食	・Bグループの作ったオムレツを試食する	
⑦振り返り	・写真を見て、振り返りをする ・レンジで調理する方法もあることを知る ・指導者の質問に答える	・活動中の写真を撮影して、振り返りの際にテレビ画面に映すようにする ・本人が活動を振り返ることのできる質問をする ・言葉での説明より文章の方が得意な生徒は文章で書くよう促す
⑦次時の確認	・次時の予定を知る	
⑧挨拶	・指導者に指名された生徒は前に出て、終わりの挨拶をする	・全員が立ち上がり準備をしてから挨拶をする

(2) 本時の評価

A	・調理に必要な動画を検索するための検索ワードを考え，インターネットで検索することができたか
B	・水の量を量ったり，小麦粉や卵を混ぜたりして調理の一部分を担うことができたか
C	・調理器具や食器の準備，食材を混ぜるなどの作業を担うことができたか ・作業中，困った時に指導者に支援を求めることができたか

5. 配置図



6. 授業の評価

(自：自己評価 他：他者評価 A：適切 B：どちらかといえば適切 C：どちらかといえば不適切 D：不適切)

授業評価の観点	自	他	備 考
適切なできる状況づくりがなされていたか			
・教材はどうだったか			
・場の構造化，物品の配置はどうか			
・支援者の配置や役割分担はどうか			
支援のあり方はどうだったか			
・支援者の話しかけや指示はどうだったか			
・教材の提示の仕方やモデルの示し方はどうだったか			
・子どもの様子の把握とそれに対する対応はどうだったか			
その他，授業者設定項目			
・インターネットで検索するための手順書は適切であったか			
・レシピは生徒にとって有効なものとなっていたか			

高モデル⑧「西の洗濯屋」

～友達とかかわりながら主体的に活動する～

京都市立西総合支援学校 高等部

活動グループ： 2年コミュニケーション②ユニット（男子6名，女子0名，計6名）

授業者： ◎白藤友数 榎木祥吾 （指導案作成者◎）

授業期間： 6月2日～1月30日 全11回 21時間

本 時： 10:45～11:30 19時間目／21時間

授業場所： 北棟2階 高等部2年5組教室

ユニット参加児童生徒の障害

☒知的障害 （ 5名 内，自閉症 4名 ）☒知的障害・肢体不自由重複障害 （ 1名 ）☐その他 （ ）

1. 本ユニットで取り扱う目標（3ケース抽出）

児童生徒	短期目標 （○：ユニットの中心課題） （・：取り扱う関連課題）	本ユニットで取り扱う行動目標
A	○用件や要求または，解らないことなどを2語文で伝える	・タブレット端末に表示された文字を見て，友達に「○○，ください」と伝え，洋服をもらう
B	○やり方がわからないときは，「わかりません，教えて下さい」と自ら支援を求める	・必要なものがないときに，指導者に自ら尋ねる
C	○指導者から離れて友達と一緒に活動する	・友達が伝えた種類の洋服を手渡す

2. ユニットについて

(1) 児童生徒について

A：本生徒は、活動の内容や流れに見通しが持てると、落ち着いて取り組むことができる。初めての活動や慣れない活動でも、あらかじめ内容を示された写真カードや指導者のモデルを見ておくことで、落ち着いて取り組める場面が増えてきた。

人とのかかわりについては、自ら身近な指導者と手をつないだり、物を手渡したりすることがある。限られた場面や内容ではあるが、自分が行きたい場所やしたいことなど（「トイレに、行きます」や「ぎゅう、してください」など）を2語文で伝えることができる。ワークスタディでは紙工班で活動し、牛乳パック切りや牛乳パックのラミネートはがしなど、複数の作業を行い、一つ一つの作業が終われば「できました」と指導者に伝えることに取り組んでいる。工程が終わると「できました」カードを指導者に提示することから始め、現在は言葉で「できました」と指導者に伝えられることも少しずつできるようになってきた。また、ワークスタディの反省会では、指導者から感想を聞かれると、いくつかある選択肢の中から自分の思いを表す文字カードを選び、言葉で伝えることができていく。しかし、DVDをもっと見たいときや、聞きたくない音を聞いたときなど、自分の言いたいことや思いを上手く伝えられずに、その場に座り込んだり、動かなくなったりすることもある。

このように、思いを言葉で伝えられる場面はまだ多くはないが、取組を重ねることで伝えられる言葉もあることから、言葉で伝える場面を他にも多く設定していきたい。これまでは、今までの学習でも取り入れてきた文字カードを使うことで、用件をスムーズに伝えられるようにした。次に、現在本人が興味を持っているタブレット端末を利用することで、より主体的に言葉で用件を相手に伝えられるのではと考えた。自分の用件や要求を言葉で伝えれば、相手がそれに応じるということを知り、思いが伝わる経験を繰り返し積んでほしい。自分の思いが相手に伝わったと感ずることで、次も自分の思いを言葉で表現しよう、表現したいという意欲に繋がっていくと思われる。その体験を積み重ねることで、学校など限られた場面だけではなく、家庭や地域社会などのさまざまな場面で、自分の思いを言葉で表現する力を培っていかないと考える。

B：本生徒は、明るく、笑顔で人と接し、初めての人にも自分からコミュニケーションを取ろうとする姿が見られる。また、生徒会役員を務めたり、クラス代表を務めたりする等、グループの中心的な役割を担い人前に出ることが多い。

人とのかかわりについては、自分から友達に話しかけることが多く、ゲームなどをすると積極的に友達の名前を呼んで楽しむ姿がある。また、指導者から話しかけられると、嬉しそうに笑顔を見せて応える様子も見られる。ワークスタディでは、後輩と作業をすると、見本を示すために一つ一つ丁寧に取り組みながら教えている。指導者から頼まれた仕事や自分が与えられた役割を終えると、「できました」と報告することができる。しかし、作業中に分からないことがあると指導者に尋ねる前に、自分の判断で作業を続けていたり、指導者に言葉をかけられるまで手を止めていたりすることがあり、注意をされてから「分かりません。」と伝えることが多い。これは、今まで「分かりません。」と伝えることが恥ずかしいことと感ずたり、伝えることで丁寧に教えてもらい、よかったと感ずる経験がなかったりしたためかと推察される。

人と積極的にかかわろうとするが、分からないことを「分かりません。」と伝えられることは少ないので、それぞれの場に合わせて正しく伝えられるようになってほしいと考える。人とコミュニケーションを取ることが好きなので、指導者や友達とかかわりながら伝える場面を多く設定していきたい。その際、指導者から言葉かけを受けると伝えられることが多いため、伝えるきっかけを作るようにする。また、正しく伝えられたときには具体的に良かった点を褒めることで、良い評価を受けると共に正しい伝え方を覚えるという経験を積んでいってほしい。その経験を積み重ねることで、自信に繋がり、さまざまな場面で正しく伝えることができるようになっていくと思われる。そうすることで、卒業後の社会生活、とりわけ「働く」場で必要とされるコミュニケーション力が育っていくと考える。

C：本生徒は、初めての学習場面や集団での活動、行事の取組等、見通しが持ちにくい活動中には、その場から離れようとするが、活動に見通しを持てると、落ち着いて活動することができる。クラスの中では、朝の会の司会やごみ捨て、給食の準備などの仕事を、役割意識を持って行うことができる。集団での活動では、指導者が隣にいたり、指導者の肩に手を置いたりすることで安心して参

加することができる。苦手な活動や慣れない活動で自分ができるか不安なときには、集団から少し離れて様子を見ているが、何度か取組を重ねることで「できそう」と実感を持てると、集団に入ることが多い。このような姿があることから、本人が落ち着いて活動できるように、授業の始めには文字や写真カードなどを提示したり、指導者が実際に手本を示したりしている。

普段は指導者とかかわることが多く、友達とかかわることは少ない。しかし、隣のクラスの友達から手を挙げて「おはよう」と挨拶されると「おはよう」とハイタッチする姿も見られ、特定の場面では、友達からのかかわりがあると応えることができる。また、朝の会（または終わりの会）で友達の名前を呼んで「スケジュールお願いします」とスケジュール表を変えてもらうことが習慣になっていたり、昼休みには友達に「図書室に行こうよ」と誘ったりする姿が増えてきている。

このように、友達と一緒に活動したいという思いが見られることから、指導者が本人のペースに合わせて言葉かけや促しをしながら、集団の中に入る機会を増やしていき、友達とのかかわりややりとりの場面を設定していきたい。何度か活動する中で「できる」という実感を得て、自信がついていくことで、指導者から離れて友達と活動できる時間が長くなっていくと思われる。そのような経験をさまざまな場面で積み重ねていくことで、よりスムーズに友達との活動に参加できるようになっていくと考える。学校だけでなく、家庭や地域社会、また卒業してからも、いろいろな人からのかかわりを受け入れることができ、自分からも発信できるようになることで、人とかかわりを広げていってほしい。

（２）ユニットの設定

本ユニットは、さまざまな場面で『自分の思いや要求、報告などを適切に言葉で伝える、その場に応じた言葉遣いや態度を示す、友達と協力しながら活動する』ことを目標とした生徒たちで構成されたユニットである。生徒たちはこれまで、指導者を介して友達同士でかかわりながら活動に取り組んだり、掲示物を製作したりしてきた。はじめのうちは指導者とかかわりが多く、友達同士のかかわりは少なかったが、活動の中で友達からの言葉かけに返答したり授業の準備・片づけを生徒同士で一緒に行ったりする様子も見えてきており、少しずつではあるが友達同士でもかかわろう、協力しようとするようになってきた。このような姿があることから、指導者や友達などの慣れた人とかかわりを中心にししながら、地域や公共施設の方々など、慣れない人とかかわりも意識した取組を設定することで、人とかかわろうとする姿を引き出したり、自分の思いを言葉で伝える、場に応じたコミュニケーションをする、などの力を伸ばしたりしていきたいと考えた。

そこで、友達と協力しながら取り組む活動を設定した。一部の生徒は昨年度から「洗濯」の活動に継続して取り組んできた。その結果、洗濯ばさみを使って干すなどの洗濯に関する一定のスキルを獲得することができた。昨年度できるようになったことを活かし、今年度は「洗濯」という活動を通して、友達とやりとりするなど、友達とかかわりを持ちながら活動することとした。

まずは、洗濯したビブスをやりとりすることで、友達とかかわりが持てるように設定した。活動の中で、決まった言い方を繰り返すことで、自信を持って自分から伝えられるようになると考えたからである。同じ友達と何度もやりとりをすることで、集団活動が苦手な生徒にとっても、見通しを持って落ち着いて活動できるようになってきた。

次の段階として、ビブスをより家庭生活に沿う題材である洋服に変えて取り組むこととした。洋服には種類があるので、洋服を受け取る生徒は決まった言い方ではなく、いくつかの言い方が必要となってくる。そのため、友達が伝えていることをよく聞き、洋服を渡さなければならない。このことから、定型ではないコミュニケーションの拡がりができることを期待する。

これらの活動を通して、人とかかわる経験や相手に正しく言葉で伝える経験を積み重ね、一人一人が課題とするコミュニケーションスキルの獲得に繋げていきたい。学校生活だけでなく日常生活においても、家庭や居住地域の中で自分の思いを伝えることで、より過ごしやすい生活を築いていけるようになり、人とかかわりもより広がっていくと思われる。

（３）状況づくりと支援について

■洗濯 1

＜状況づくり＞

- ・ビブスを色分けする活動では、友達とかかわりながら色分けできるように、それぞれが担当する色を決めておく
- ・ビブスを番号順にする活動では、友達とかかわりながら協力して取り組めるように、一緒に活動する

ペアを決め、番号を伝える役と、その番号のビブスを探して重ねる役に分かれる

<支援>

- ・生徒の主体的な動きを引き出すため、指導者は見守る姿勢をとる
- ・友達に伝えるのが難しいときは、指導者が促しの言葉かけや指差しをする
- ・ビブスを色分けする活動では、担当するビブスの色を正しく伝えられたときに、達成感をもてるように褒める
- ・ビブスを番号順にする活動では、それぞれがやりとりできるように、必要に応じて指導者が伝える番号を言葉かけしたり、一緒に受け渡ししたりする

■洗濯 2

○教室で干す準備をする

<状況づくり>

- ・どこに何をどのように準備すればよいか、写真カードをその場所に貼っておく
- ・自分たちで準備できるように、ハンガー類やシートは置き場所を固定しておく
- ・協力してシートを敷くように、サイズの大きいシートを用意する

<支援>

- ・どこに何をどのように準備すればいいかわからないときは、写真カードを指差したり、言葉かけをしたりする

○洗濯物をハンガーやたこ足ハンガーに干す

<状況づくり>

- ・自分のたこ足ハンガーがわかるように、生徒の実態に合わせて顔写真カードを貼っておく
- ・落ち着いて自ら活動できるように、イスを用意し、本人がよく見える位置に活動内容を提示しておく（C）
- ・少ない支援で正しく伝えられるように、自分で操作できるタブレット端末に「〇〇、ください」と書かれた写真を数枚入れておく（A）
- ・自分から指導者に尋ねられるように、用意するハンガーは少なくしておく（B）

<支援>

- ・ハンガーが最後の一つになったときに、指導者が本人の近くに位置し、本人が質問しやすいようにする（B）
- ・話す部分に分かるように、文字に沿って指差しをする（A）
- ・違う種類の洋服を手渡した時は、正しい洋服を渡せるように、言葉かけしたり、正しい洋服を指差したりする（C）

○洗濯物を干しに行く

<状況づくり>

- ・運びやすいように洗濯物を入れて持って行けるかごを用意しておく
- ・誰が運ぶかごが分かりやすいように、生徒の実態に合わせて、かごには顔写真カードを貼っておく
- ・自分から指導者に尋ねられるように、物干し竿を外しておく（B）

<支援>

- ・自分から尋ねられるように、本人からの言葉を待つ（B）
- ・友達と協力して干すように言葉かけをする

○本時のまとめ

<状況づくり>

- ・振り返りの発表は、よく慣れているワークスタディでの発表と同じ形式で行う
- ・いくつかの選択肢の文字カードを用意しておく（A、C）
- ・自分で振り返ることができるように、振り返りプリントを用意しておく（B）
- ・指導者と一緒に発表できるように、活動中の様子をタブレット端末で撮っておく

<支援>

- ・発表をするのが難しいときは、話す部分に分かりやすいように、本人が選んだ文字カードを文字に沿って指差しする（A、C）

3. 本ユニットの実施計画

(1) 授業実施計画

全21時間（本時第19時間目）

学習項目	内 容	状況づくり及び支援の要点	時間配当
・洗濯1	○洗濯されたビブスを干す ・ビブスを取りに行く ・たこ足ハンガーにビブスを干す ・ビブスを干しに行く △干したビブスを取り込む ・ビブスを取りに行く ・ビブスを色分けする ・ビブスを番号順にする ※○と△の活動を交互に取り組む	・それぞれの生徒がかかわりながら活動できるように，あらかじめ担当するビブスの色を決めたり，ペアになって活動したりするようにする ・生徒の主体的な動きを引き出すため，指導者は見守る姿勢をとる	12時間
・洗濯2	□洗濯された洋服を干す ・洋服を取りに行く ・たこ足ハンガーやハンガーに洋服を干す ・洋服を干しに行く	・友達とかかわりながら活動できるように，洋服を渡す役と干す役を決めておく ・生徒の主体的な動きを引き出すため，指導者は見守る姿勢をとる	9時間

(2) 指導計画 (個別)

児童 生徒	行動目標 ※本時	できる状況づくりと支援
A	◇タブレット端末に表示された文字を見て、友達に「〇〇、ください」と伝え、洋服をもらう ①指導者がカードを指差ししながら、言葉かけすると、友達に「〇色、ください」と伝え、ビブスをもらう (6時間) ②指導者の指差しでカードを見て、友達に「〇色、ください」と伝え、ビブスをもらう (6時間) ③指導者がタブレット端末に表示された文字を指差ししながら、モデルを示すと、友達に「〇〇、ください」と伝え、洋服をもらう (2時間) ④指導者がタブレット端末に表示された文字を指差しすると、友達に「〇〇、ください」と伝え、洋服をもらう (4時間) ⑤タブレット端末に表示された文字を見て、友達に「〇〇、ください」と伝え、洋服をもらう ※ (1時間目／3時間)	・正しく伝えられるように、「〇色、ください」と書かれた色カードを渡しておく ・分かりやすいように、モデルを示す時はゆっくりと話す ・話す部分に分かるように、文字に沿って指差しをする ・正しく伝えられるように、タブレット端末に表示されている言葉をゆっくりと読む ・話す部分に分かるように、文字に沿って指差しをする ・自分から言葉で伝えられるように、そばで見守る
B	◇必要なものがないときに、指導者に自ら尋ねる ○たこ足ハンガーに干すところが無くなれば指導者にどうすればいいか尋ねる ①指導者から正しく伝えるよう促されると、干すところが無くなればどうすればいいか尋ねる (8時間) ②たこ足ハンガーに干すところが無くなれば指導者にどうすればいいか尋ねる (4時間) ○ハンガーが足りなくなれば指導者にどうすればいいか尋ねる ①ハンガーが足りなくなったときに、指導者から正しく伝えるよう促されると、どうすればいいかを尋ねる (4時間) ②ハンガーが足りなくなれば指導者にどうすればいいか尋ねる ※ (3時間目／5時間) ○物干し竿がないときに、指導者にどうすればいいか尋ねる ①物干し竿がないときに、指導者から正しく伝えるよう促されると、どうすればいいかを尋ねる (4時間) ②物干し竿がないときに、指導者にどうすればいいか尋ねる ※ (3時間目／5時間)	・自分から指導者に尋ねられるように、用意するたこ足ハンガーは一つにしておく ・ハンガーや物干し竿がなくて困った様子のときは、「どうしたらいい？」と促しの言葉かけをする ・自分から尋ねられるように、本人からの言葉を待つ
C	◇友達が伝えた種類の洋服を手渡す ①指導者がモデルを示すと、友達が伝えた色のビブスを手渡す (6時間) ②活動内容が書かれた文字カードがあると、友達が伝えた色のビブスを手渡す (2時間) ③友達が伝えた色のビブスを手渡す (4時間)	・落ち着いて活動できるように、椅子を用意する ・本人の目に留まるように、活動内容が書かれた文字カードを座った視線の先に貼っておく ・違う色を手渡した時は、正しい色を渡せるように、言葉かけしたり、正しい色のビブスを指差ししたりする

	④活動内容が書かれた文字カードがあると、友達が伝えた種類の洋服を手渡す (4時間) ⑤友達が伝えた種類の洋服を手渡す ※(3時間目/5時間)	・落ち着いて活動できるように、椅子を用意する ・本人の目に留まるように、活動内容が書かれた文字カードを座った視線の先に貼っておく ・違う種類の洋服を手渡した時は、正しい洋服を渡せるように、言葉かけしたり、正しい洋服を指差ししたりする
--	--	---

4. 本時の授業について

(1) 本時の展開

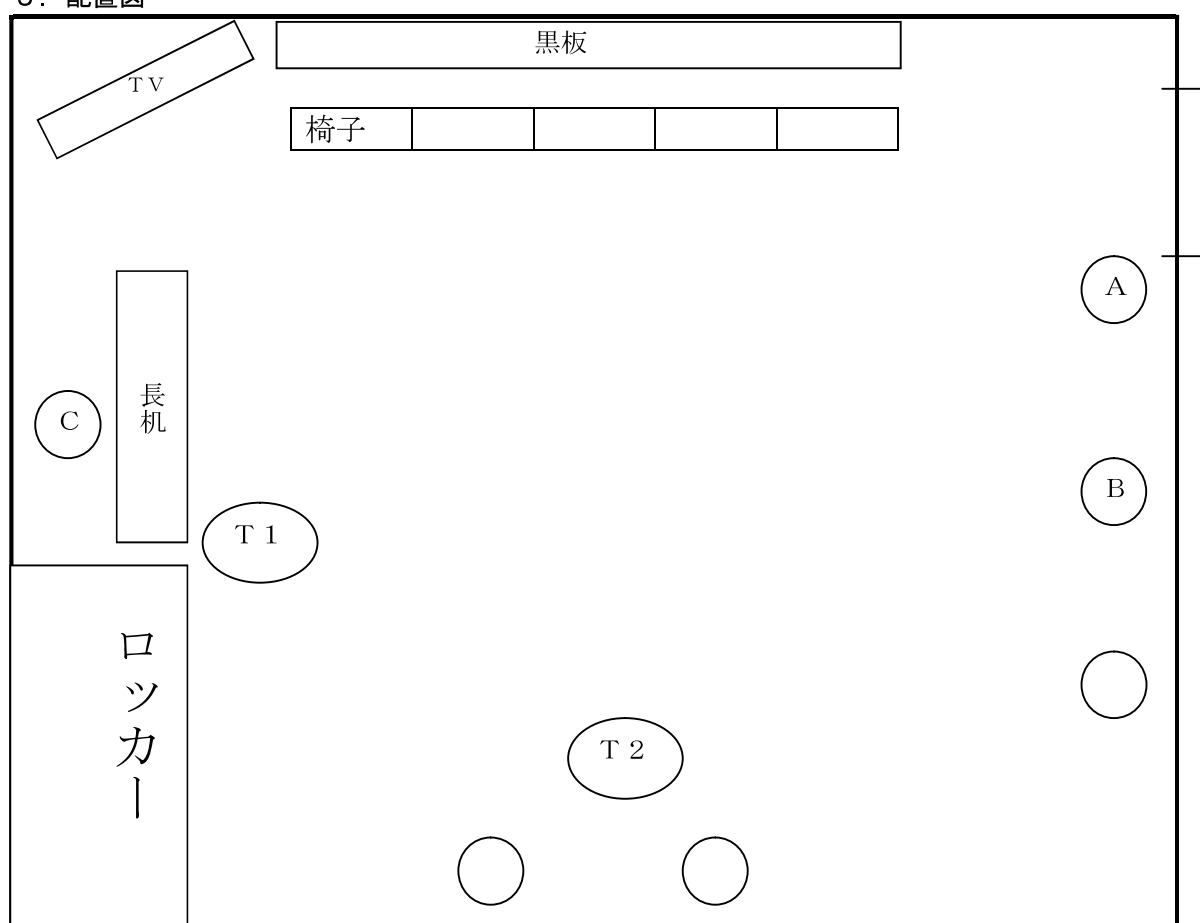
学習内容(項目)	児童生徒の活動	指導者の活動/支援
○挨拶	・代表の生徒が号令をかける(B) ・出欠確認係の生徒が友達の名前を呼び、出欠表に記入する(B) ・名前を呼ばれたら、大きな声で「はい」と返事をする	・代表の生徒に号令をかけるよう促す(B) ・出欠表を係の生徒に渡す(B)
○本時の活動内容を知る	・指導者から本時の活動内容を聞く	・見通しが持てるように、黒板に写真カードを貼り、必要に応じて各生徒の目の前に提示して、授業の流れを説明する
○洗濯物を取りに行く(2人) 教室で干す準備をする(4人)	・洗濯室に洗濯物を取りに行き教室に戻る ・教室から机を出したり、たこ足ハンガーを用意したりする(A, B, C)	・どこに何をどのように準備すればよいか写真カードをその場所に貼っておく(A, B, C)
○洗濯物をハンガーやたこ足ハンガーに干す	・友達が伝えた種類の洋服を手渡す(C) ・タブレット端末に表示された文字を見て、友達に「〇〇、ください」と伝え、洋服をもらう(A) ・ハンガーがなくなれば指導者にどうすればいいか尋ねる(B)	・落ち着いて自ら活動できるように、椅子に座り、本人がよく見える位置に活動内容を提示しておく(C) ・少ない支援で正しく伝えられるように、自分で操作できるタブレット端末に「〇〇、ください」と書かれた写真を数枚入れておく(A) ・自分から指導者に尋ねられるように、用意するハンガーは少なくしておく(B) ・ハンガーが最後の一つになったときに、指導者が本人の近くに位置し、本人が質問しやすいようにする(B)
○洗濯物を干しに行く	・全員で校舎の外に洗濯物を干しに行く(雨天時は渡り廊下で干しに行く) ・物干し竿がないときに、指導者にどうすればいいか尋ねる(B) ・全員で教室に戻る	・友達同士で一緒に行けるよう並ぶ順番を伝える ・自分から指導者に尋ねられるように、物干し竿を外しておく

○本時のまとめ	・今日の活動をそれぞれの方法で振り返り発表する	・今日の活動内容や感想を選べるように、いくつかの選択肢の文字カードを用意しておく（A，C） ・振り返りプリントを用意する（B）
○挨拶	・代表の生徒が号令をかける（B）	・代表の生徒に号令をかけるよう促す（B）

（２）本時の評価

A	・タブレット端末に表示された文字を見て、友達に「〇〇，ください」と伝え、洋服をもらうことができたか
B	・ハンガーが足りなくなれば指導者にどうすればいいか尋ねることができたか ・物干し竿がないときに，指導者にどうすればいいか尋ねることができたか
C	・友達が伝えた種類の洋服を手渡すことができたか

５．配置図



6. 授業の評価

(自：自己評価 他：他者評価 A：適切 B：どちらかといえば適切 C：どちらかといえば不適切 D：不適切)

授業評価の観点	自	他	備 考
適切なできる状況づくりがなされていたか			
・教材はどうだったか			
・場の構造化、物品の配置はどうか			
・支援者の配置や役割分担はどうか			
支援のあり方はどうだったか			
・支援者の話しかけや指示はどうだったか			
・教材の提示の仕方やモデルの示し方はどうだったか			
・子どもの様子の把握とそれに対する対応はどうだったか			
その他，授業者設定項目			
・生徒たちが，友達とかかわりながら主体的に活動できるような手だてができたか			
・良かったことやできたことに対して，生徒を褒めることができたか			